



SAH
SPORTS ACTION
X
ATHLETE
MAGAZINE

My Favorite Numbers
～数字が紐解く広島アスリートの素顔～
小泉病院ブルーアローズ

佐々木彩葉

三原市を拠点に活動する女子ソフトボールチーム・小泉病院ブルーアローズから、佐々木彩葉(ささき・いろは)選手が登場。昨シーズンはセクション準優勝と躍進を遂げたチームを主将としてけん引する佐々木選手が、大切にしている数字とは。ソフトボールとファンをつなぐプロジェクトへの熱い思いも語ってもらった。

スポーツアクティベーションひろしま

「もっと笑顔に広島を。スポーツの力で!」をビジョンに掲げ、広島県庁スポーツ推進課が立ち上げたスポーツコミッション。県内のさまざまなスポーツ資源を活用して地域活性化を目指している。主な取り組みとして、わかまちスポーツ(スポーツを活用した地域活性化に向けて取り組む市町への支援)、県内スポーツの戦略的情報発信(広島横断型スポーツ応援プロジェクト「Team WISH」)等。



SAHの詳細はHPをチェック!



ささき・いろは

1997年11月27日生。広島県出身。右投右打・内野手。中学から本格的にソフトボールを初め、大学は東京女子大育大に進学。全日本大学女子選手権(インカレ)では3位に輝くなど実績を積み、卒業後は伊予銀行VERTZ(愛媛)を経て、2022年に小泉病院ブルーアローズ加入。2023シーズンから主将を務める。憧れの選手は元・カブ前田智徳。

小泉病院ブルーアローズ

2019年に創部し、2022シーズンから日本女子ソフトボールリーグ(JSL)に参入中の実業団チーム。JSLはプラチナセクション・サファイアセクションに分かれており、ブルーアローズはサファイアセクションに所属している。2023シーズンはセクション準優勝。今シーズンはさらなる躍進を目指す実力派の実業団チームだ。地元・広島出身の選手が多いのも特徴の一つ。

大躍進の昨年を超える、今シーズンの目標とチャレンジ

「日本女子ソフトボールリーグ(JSL)が4月に開幕し、8月の時点でシーズンの約1/3が終了しました。改めて、今シーズンのチームの目標を教えてください。」
「今シーズンは、石川県で開幕戦を迎えました。元日の震災からの復興が進む中なので複雑な思いもありましたが、ソフトボールができることに感謝しながら戦いたいと、強く感じることができました。昨シーズンは自分たちが掲げた目標をすべてクリアすることができたので、今年はそれ以上を目指して戦っていきたいと思っています」

準備をした上で、できることは何でもやっておくのが佐々木流
—このインタビューは、さまざまな競技のアスリートに「数字」にまつわるエピソードをお伺いする連載です。佐々木選手にとって、最初に思い浮かぶ数字や思い入れのある数字があれば教えてください。

「一番身近にある数字は『168』です。私の名前が彩葉と書いてイロハと読むのですが、ゴロ合わせで小学生の頃からいろんなところに『168』と書いていました。占いに興味を持つようになって調べてみたら、たまたまそれが風水的にすごく強い数字らしくて……それを知ってから、余計によく使うようになりました」

—スポーツ選手にとっては背番号も身近な数字だと思いますが、3桁だと背番号にはしづらいですね。

「実は、もうひとつ大事な数字があります。それは『27』です。大学では卒業した先輩の継いだのですが、私は同じシヨートのポジションを守っていた先輩から『27』を受け継ぐことになりました。これはたまたまなのですが、私の誕生日が11月27日なんです。ですので、『27』の背番号も受け継いだ時には

縁を感じました。大学卒業後に入団した愛媛の実業団チームでは背番号を自分で選ぶことができたので、『27』番を選んで付けていました」

—小泉病院ブルーアローズ(以下、ブルーアローズ)では、背番号10をつけていらっしゃいますね。

「去年からキャプテンをしているのですが、ソフトボールでは、『キャプテンは10番を背負う』という決まりがあるんです。中学・高校も大学でもそうでしたし、これはブルーアローズ以外のどのチームも同じです。キャプテンになったら、それまで何番を付けていても、10番に変わります」

—チームを背負って立つ、重みのある背番号なのですね。

「そうですね。今までキャプテンをやった経験がなかったので、改めて、『やっぱり10番は違うな』と感じています。誰が見ても『あ、あの人がキャプテンなんだ』とすぐわかりやすい、特別な数字だと思います」

—他に、印象的な数字や、大切にしている数字はありますか？

「私は縁起を担いだり、運が良くなるようなことをしたりするのが好きなのですが、すごくパワーのある数字だと聞いたので、去年から『369』という数字を大事にしていま

す。バッティンググループにも『369』と刺繍を入れているんです。絶対に効果があるとは言い切れないのですが、やって損をすることはありませぬし、『効果があればラッキー』という意識でやってきました。もし何かプラスになってくれるのであれば、それをソフトボールにつなげたいし、自分にできることは何でもやってきたいと思っています」

—効果を感じる出来事はありましたか？

「昨シーズン、初めて日本ソフトボールリーグ(JSL)で『ベストナイン』に選ばれました。ベストナインは12チームから打率の高い野手10選手が選ばれるのですが、昨シーズンは3割8分9厘の成績を残すことができました。もともとバッティングがあまり得意ではなかったので、率も残せて、しかもリーグの上位10人に入れたのは、私にとって出来過ぎに思えました。昨シーズンは初めてキャプテンを経験し、チームもリーグで準優勝。昨年は12チーム中10位だったので、いろんなことがうまく行った年だったと思います」

—しっかりと積み上げてきたものがあつたからこそ、数字の力が最後の一押しになったのかもしれないですね。

「そうですね。運が良かった、ツイているなと感ずることもたくさんありました」

「はい。そして今シーズンは、競技とは別に『チャレンジ10000人とキャッチボール』という企画の達成も目標にしています。これはJSLが主催している企画で、キャッチボールを通して全国のソフトボールファンとコミュニケーションの機会を増やすことを目的とした取り組みです。試合会場や練習場で選手とファンがキャッチボールできるので、興味のある方にはぜひ参加していただければと思います。キャッチボールをしている動画や写真がJSLのWEBサイトやSNSで公開されるのですが、それさえ了承していただければ、どなたでもウエルカムです。年齢制限もありませんし、ソフトボールの経験も不問。グローブを持っていない方にはお貸しすることもできます。練習試合のスケジュールはホームページに載っているののでぜひチェックしてもらって、試合会場に『チャレンジ10000人とキャッチボール』に参加していただけたらうれしいです」